

# 伝統文化の発展と衰退

## 地域の伝統文化の担い手育成の課題

### 報告 ③

会報  
獅子の如く  
ししのごとく



2023年4月25日  
第35号 地域版  
発行  
獅子の如く編集部



発行責任者 木村 信彦  
編集 清水 美紗  
監 西片 房一  
協力 吉祥院六斎保存会

#### 担い手育成の取り組み



保存会は、現在、約十五名の会員で構成されているが、年齢に基づきその構成員を大きく三つに分けると、七十歳以上の世代は、戦後の強制的に加入した人たちで、それに続く六十代前後の世代は一九八〇年に若者が加入したメンバーが在籍している。小学生から大学生までの世代は、後に述べる「吉祥院子ども六斎会」の結成に関わる世代になる。

#### 保存会の主な活動

は、毎年四月二十五日、八月二十五日に開催される吉祥院天満宮大祭の六斎奉納のほか、吉祥院地域内のイベントなどに出演している。また、子ども六斎会の練習会が毎月第二、第四金曜日の午後七時に行われ、研究会会員とともに指導に当たっている。保存会の練習は、六斎奉納前に二、三日集中した種習を行っている。

#### 吉祥院子ども六斎会

子ども六斎会が結成されたきっかけは、一九九二年に小学生を対象にした学習施設の取り組みから始まる。この学習では、すそ野学習の一環として、地域の文化や人々の生活実態を学ぶ学習を取り組まれ、その指導において小学校教職員が中心的な役割を果たしている。ただし、一九九二年の時点では、フィールドワークを行う中で、六斎念仏の歴史などを調べて報告を行うのみで、実際に六斎の練習を始めたのは翌年のすそ野学習の二期生の木村信彦氏(同研究会会長)と村田大輔氏(同研究会副会長)たちからである。

#### 冷やかな目で見られた。

は冷やかな目で見られた。そのため、保存会からは、指導を受けずに本当にできるのか、悪い癖がつく、保護者から批判的に見られないかななどの意見があったという。また、獅子の練習も実際に使用されている獅子頭も使うことが許されなかった。すそ野学習の一環で子どもたちが作成した発泡スチロールの獅子頭で独自の練習方法で技を完成させている。また、昔のビデオ等の映像を見ながら見様見真似で獅子の動き方などを覚えたという。成果発表の場合は、すそ野学習全市交流会や、地元吉祥院デイスターや児童館の竣工式、敬老の集いなどのイベントに出演する活動を続けていた。

#### 習から実際に使用されて...

習から実際に使用されて、鼓、鉦などの道具を用いた練習ができるという形態になった。このような経緯から一九九五年三月に正式に吉祥院子ども六斎会が結成された。現在では吉祥院天満宮春・夏期大祭への六斎奉納において、保存会と一緒に出演するまでになっている。その中で問題となっていたのが、小学生の参加者の中には女子も含まれており、これまでは男子のみが天満宮の舞台上に上がることが許されていたが、女子は舞台上に上がることが許されなかった。昔ながらの習慣よりも担い手問題を優先させたいという保存会への指導が、これまでビデオを用いて見様見真似の練習から実際に使用されて...

#### この活動は「子どもたちに地域文化に触れ、六斎の歴史を知ることは六斎を守ることにつながる」と積極的に...

この活動は「子どもたちに地域文化に触れ、六斎の歴史を知ることは六斎を守ることにつながる」と積極的に... 近年、活動もさらに活発化し、吉祥院小学校三年生で取り組まれる六斎学習に研究会会員が六斎の歴史や魅力を伝える活動が取り組まれている。

#### 第36号につづく



六斎 ユネスコ無形文化遺産に登録

「京都の六斎念仏」が国連教育・科学・文化機関ユネスコ無形文化遺産に登録された。六斎は主に八月のお盆前後に寺社などで鉦や太鼓を打ち鳴らして踊る伝統芸能で、能や狂言、歌舞伎の芸能の要素を取り入れ、地域文化として保存継承され、人々が大切にきた六斎が世界に認められた。六斎保存会の関係者は、「直面する担い手不足を乗り越え、伝承のすそ野を広げたい」と後継者育成に期待する。また、子ども六斎会の保護者から「二年間コロナ禍で稽古もできず、発表の機会もなかった。地域の人たちが大切に守ってきた六斎が評価され、子ども世代の大きな励みになる」と喜んでいる。



※伝統芸能を通じて地域コミュニティをより深めていただくことを目的とした企画。地域の皆様に執筆を頂き掲載しています。

私は、昭和三十八年五月に南区で生まれ育ち、今年で六十歳になります。

仕事の都合で途中、何度か京都を離れておりましたが、お正月にはほぼ毎年、吉祥院天満宮に初詣に行っております。

コロナ禍で祭りも中止になっていましたが、去年、久しぶりに六斎念仏の祭

# まつりの思い出

Cafe & Lunch Piccolo ピッコロ

鎌仲 広和さん & ひとみさん

京都市南区唐橋琵琶町26-2 ☎ 075-691-7402



りがある聞き、お店が終わってからお妻と二人で吉祥院天満宮まで見に行きました。

人がたくさん集まっていますの三年ぶりの光景で、夜店でカステラを購入したり、踊りを見させて頂き、とてもよい一日となりました。



数年前までは、滋賀のホテルにて調理の仕事をしていましたが、実家である南区唐橋の自宅を改装し、ランチがメインの小さなレストランを営んでおります。



これからも、この地元で商売を営んでいくつもりなので、毎年、開催される事を楽しみにしております。

お祭りの様子もお店のインスタグラムに投稿すると、近くのお客様が『わたしも行ってましたよ!』とコメントを何件かくださり、お祭り良かったね!と話題になりました。

コロナ禍でなかなか共通の話題も減ってしまい、お客様とのコミュニケーションのなくなった事は、とても良い事だと思えます。

時代はどんどんと変わり、ネットやゲームで遊ぶ子どもたちも多いですが、昔からの歴史あるお祭りの良さは、この先も続いて欲しいし、伝えたいですね。

毎年の楽しみの一つとなるように、お店でも情報発信しようと思っております。

人々の笑顔がたくさん集まるお祭りというのが、私



の子どもの頃の思い出となつていきます。

## Cafe & Lunch Piccolo

カフェ&ランチ ピッコロ

■ピッコロはバス停九条七本松から徒歩二分のところにあります。オーナーシェフ広和さんは、洋食をメインにホテルシェフ歴三十五年。奥様のひとみさんはホテルのサービスをされていたというごときで、お客さんをおもてなすきめ細かなサービスでゲストを迎えられています。

■ピッコロは味ですが、また空間という意気味もあり、落ち着けるリビンググのようにつるいて頂きたいと二〇二一年三月十五日にピッコロをオープンされました。閑静な住宅にあり、のんびりできて雰囲気のある洋食喫茶です。

■メニューも豊富で三種類の代替わりランチの他、沖縄産豚肉燻製ベーコンとペパロニチノ、鰯(たら)のムニエルの Pasta、サンドイッチ等々、お洒落なメニューが揃っています。

■食事の後、優

くも味わい深いコーヒーと上取り焼き上げた自家製スイーツもとても美味しかったです。

■営業時間  
八時半から十八時まで  
■定休日水曜日、第二・第四火曜

